



アグリテック

— 豊かな農業、儲かる農業都市の実現 —

集積戦略

概要版

2019年
3月



深谷市

戦略策定の背景

我が国は、経済のグローバル化の進行や環境問題が深刻化していく中で本格的な人口減少社会を迎えており、持続可能な社会に向けた時代の変革期に突入しています。

かつて我が国は、欧米列強の外圧に晒された江戸時代末期から近代国家に向けた変革を実現しました。

その変革期において、郷土の偉人渋沢栄一翁は、論語と算盤の精神に基づき、産業の力を用いて社会課題を解決し、まちをそして国家を発展させようと力を尽くしました。



渋沢 栄一

深谷市は、その渋沢栄一翁の論語と算盤の精神を尊重し、今この時代にあらためてその精神を実践します。

深谷市は、深谷ねぎをはじめ多様な農産物を生み出す一大生産地であり、首都圏の食を支えてきました。

農業は食という社会と人々を支える基本的要素ですが、後継問題や技能伝承など様々な課題を抱えており、日本の農業の持続可能性が危ぶまれています。

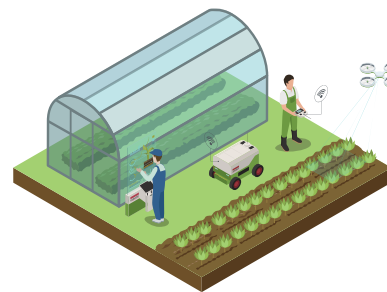
深谷市は、この農業を次世代に引き継ぐことができるよう、日本の農業が抱える課題の解決に挑戦します。

深谷市は、農業を次世代に引き継ぐためには、他産業の発展において蓄積された知識や磨かれた技術を活用・融合し、農業課題を解決する技術（アグリテック）を生み出し、農業の生産性を高め、価値を高めることが必要であると考えます。

深谷市は、様々な知識や技術を深谷市に集め、アグリテックを生み出し、この地から日本の農業課題の解決を図り、これからの日本の産業の発展に資する企業や人材を多く輩出していきます。

深谷市の現状と課題

少子高齢化の進展に伴う人口減少社会の本格的な到来、高度情報化やグローバル化の進展、市民ニーズや価値観の多様化など、社会や経済を取り巻く環境は大きく変化しています。



深谷市では人口減少等も重なり、市内の商工業は規模・従事者数共に減少傾向が続いています。従来も製造業等の工場誘致を実施してきましたが、市内全域に優良農地（農振農用地）が広がり、工場用地の確保が困難な状況です。また、グローバル化による製造業の競争環境の変化により、立地要因でより有利な海外に進出する傾向が強まり、工場用地を整備するだけでは誘致は困難になってきています。

今後の産業振興では、これからの成長が期待される産業や、産業を生み出す技術革新をターゲットとした戦略を策定する必要があります。

また、従来の企業誘致の反省から、深谷市の産業特性や地域への経済波及効果を踏まえた新たな企業誘致が必要です。

深谷市の地域経済循環分析の結果から、農業と食料品製造業が地域他産業へ波及する効果が高いことがわかりました。

しかしながら農業は、耕作放棄地の増加や後継者不足等、農業の持続可能性が危ぶまれています。そこで、農業の生産性を高める技術や企業を誘致することで、農業の稼ぐ力と魅力を高め、地域他産業への波及を図り、持続可能な社会に変革することが急務であると考えています。

深谷市の強みである農業が抱える課題を
解決し得る技術・ノウハウを持つ
「アグリテック企業」の誘致・集積を図り
アグリテック集積都市
DEEP VALLEY
の実現を目指します

アグリテック(AgriTech)とは

農業(Agriculture)とテクノロジー(Technology)を組み合わせた造語です。

深谷市が考えるアグリテックとは、農業が抱える課題を解決する知識やノウハウ、技術を広く指します。

ここでの「技術」とは、ロボティクスやドローン、ビックデータ、IoT(モノのインターネット)、人工知能といったICT(情報通信技術)における最新技術だけではなく、製造業やサービス業(第2次産業、第3次産業)において、現場の課題を解決する手段として開発された技術や道具や仕組みに加え、各産業の顧客が抱える課題を解決するために開発された製品やサービス等を対象とします。

アグリテック集積都市 DEEP VALLEY

- 技術革新を得意とする企業と農業生産者が繋がり合い、アグリテックが生まれ続けるまちを目指します。
- 国内外に向けて、農業技術の進化・変革を発信し続け、新たな農業の未来像や問題を提示します。
- 郷土の偉人渋沢栄一翁が唱えた「論語と算盤」の理念・価値観を尊重し、経済合理性と持続可能性を兼ねた、社会の在り方を実現します。
- 最先端の知識・技術を活用し、チャレンジする若者が育ち、農業の担い手となる若者が生まれ続けることを目指します。

集積戦略

将来都市像 元気と笑顔の生産地 ふかや

産業ブランディング方針

儲かる農業都市 ふかや

人口減少社会において、農業を軸に、恵みあふれる自然と多様性がある人々がつながり、まちに活力があふれ、豊かに暮らせる持続可能な社会

アグリテック集積都市 DEEP VALLEY

農業に関わる多様な企業がつながりあい、集積が発生

技術革新を目指す企業の集積

投資家、ベンチャー
キャピタルの関心

農業関連
企業の集積

大学・研究機関
との連携

取組をひろげる

- 起業家同士の交流を促進する
- 異業種交流を促進する
- 各種展示会への出展支援や、交流イベント開催を支援する 等

次世代農業
の創出

農業人財・
担い手の育成

農業課題と技術をつなげる

- 農家・実証フィールドと企業・技術をつなげる
- 農家・企業の相互理解を促進する活動を実施する
- 技術の活用、企業活動の定着化を推進する 等

農業課題を
解決する
技術・製品
の開発

農業の
生産性向上

非農業分野

- アグリテック関連業界・企業・技術の動向を調べる
- 深谷市の農業課題解決に資する企業・技術を探索し、誘致する
- PR・情報発信を実施する 等

アグリテックコンテストを開催する

解決する技術
を集める

農業課題
を集める

DEEP VALLEY
アグリテック
集積宣言

農業分野

- アグリテックの開発に協力する農家を集める
- アグリテックの実証フィールドとなる場所や農地を集める
- 現場で起きている課題を集める 等

農業課題データベースを創設する

深谷市の 強みと課題

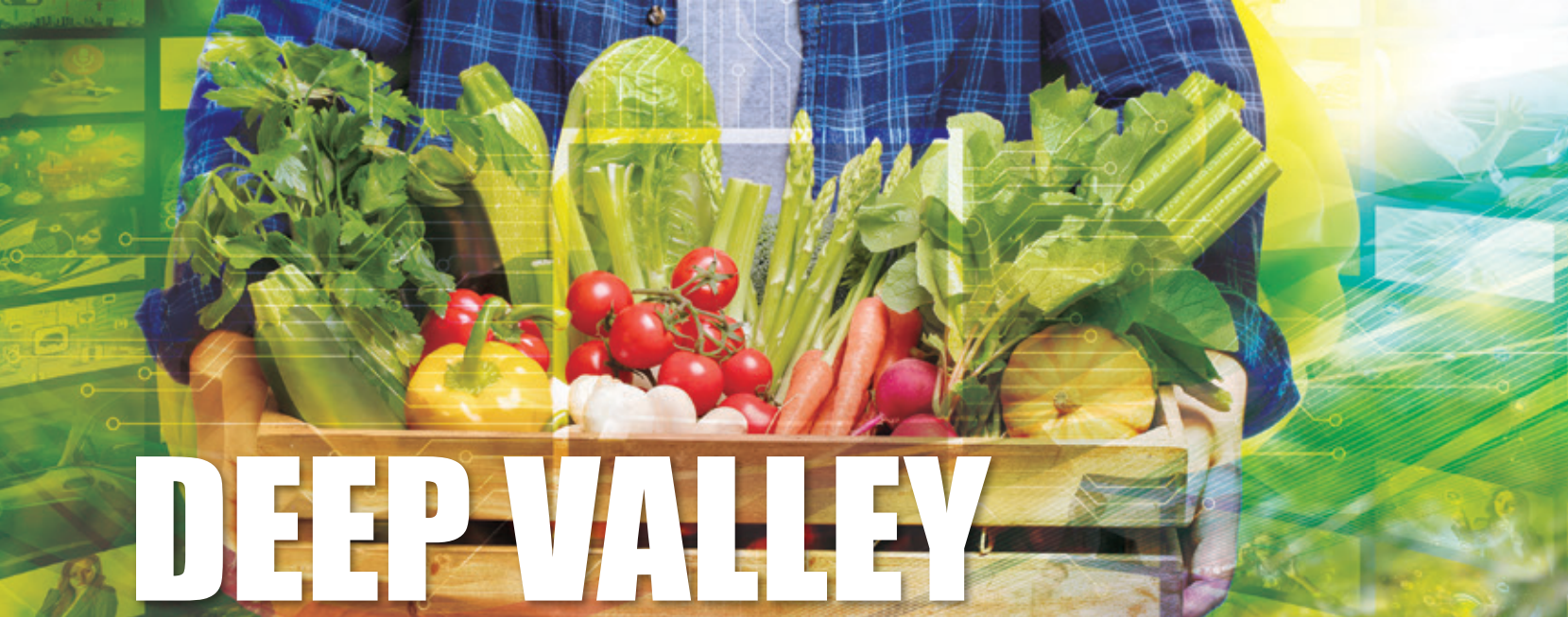
豊かな農業を 儲かる農業へ

- 農業の一大産地、多種多様な農産物
- 「深谷ねぎ」等の高い農業ブランド力
- 農業と食品製造業の地域内産業への波及効果が高い
- 渋沢栄一をはじめとする人財・企業・文化・歴史



農業生産性を高める 技術・企業の取込

- 農業における後継者・担い手の確保
- 農地保全(耕作放棄地の発生抑制)
- 工業用地の不足
- 市内産業の活性化・雇用創出に対して、行政施策としての限界
- 今後成長が期待される産業・テクノロジーの取組



目指す将来都市像

元気と笑顔の生産地 ふかや

産業ブランディング方針

儲かる農業都市 ふかや

集積戦略が目指す産業振興の目標

アグリテック集積都市
DEEP VALLEYの実現

農業に関わる多様な企業がつながりあい、
自発的な企業の集積が発生している状態



○定量的目標

指標項目	現状値(2018年度)	目標値(2022年度)
法人市民税額	1,345,453千円(2016年度)	1,420,000千円
農業産出額	349億円(2015年度)	356億円
アグリテックコンテスト参加企業数	—	40社
アグリテック実証実験数	—	10件(累計)
アグリテック実証実験参加企業数	—	10社(累計)
アグリテック企業誘致数	—	3社(累計)
農業法人数	56法人(累計)(2016年度)	68法人(累計)

集積戦略の理念・コンセプト

深谷市は、深谷市発の農業技術の進化・変革を発信し、農業関連企業や技術革新を得意とする企業を誘致・集積を実現することにより、全国でも名だたる農業先進都市を目指します。

集積戦略の基本戦略 1

AgriTech

アグリテック集積を宣言する

深谷市が「DEEP VALLEY」という旗を掲げ、アグリテック企業の集積を「持続可能なまちの実現」に向けた推進エンジンとして、これから取組を本格的に始動させていく決意を日本全体に示します。

集積戦略の基本戦略 2

農業課題を集める

アグリテック企業に協力する農業者や実証フィールド、現場で起きている課題を集め、農業課題データベースを創設します。

集積戦略の基本戦略 3

解決する技術を集める

アグリテックコンテストを始めとした誘致活動を推進し、深谷市の農業課題解決に資する企業・技術を集めます。

集積戦略の基本戦略 4

農業課題と技術をつなげる

深谷市の農業課題と技術とのマッチングや、農業者・企業の相互理解を促進する活動を行い、技術の活用や企業活動の定着化を推進します。

集積戦略の基本戦略 5

取組をひろげる

起業家同士や異業種交流の促進を図る他、各種展示会への出展支援や、交流イベント開催を支援し、農業に関わる関係者のつながりをひろげます。

アグリテック

— 豊かな農業、儲かる農業都市の実現 —

集積戦略

2019年
3月



深谷市

お問い合わせ先

埼玉県 深谷市
産業振興部 産業ブランド推進室
●電話：048-571-1211(代表)
●Email：f-brand@city.fukaya.saitama.jp